

令和4年度

稚内市

観光入込客数状況

稚内市
(令和5年6月)

目次

I. 観光入込客数の概要	1
(1) 総合的な観光入込客数の状況	1
(2) 道内客・道外客別の状況.....	2
(3) 日帰り客・宿泊客別の状況.....	3
(4) 外国人宿泊客延数の状況.....	5
II. 観光客動態調査（アンケート）分析.....	6
(1) 地域別観光客の入込状況.....	6
(2) 年代別観光客の入込状況.....	7
(3) 男女別観光客の入込状況.....	7
(4) 旅行日程別観光客の入込状況	8
(5) 市内宿泊状況別観光客の入込状況.....	8
(6) 市内宿泊日数別観光客の入込状況.....	9
(7) 訪問観光地点別観光客の入込状況.....	9
(8) 利尻島・礼文島訪問状況別観光客の入込状況.....	10
(9) 旅行形態別観光客の入込状況	10
(10) 交通手段別観光客の入込状況.....	11
(11) 来稚回数別観光客の入込状況.....	11
(12) 旅行理由別観光客の入込状況.....	12
(13) 近隣市町村観光地点訪問状況別観光客の入込状況.....	12
III. 総合的な検証	13
(1) 観光入込客数状況	13
(2) 観光入込客数の内訳.....	13
(3) 今後の取り組み.....	13
IV. 資料	
(1) 観光入込客数総表	15
(2) 外国人宿泊客数総表.....	16

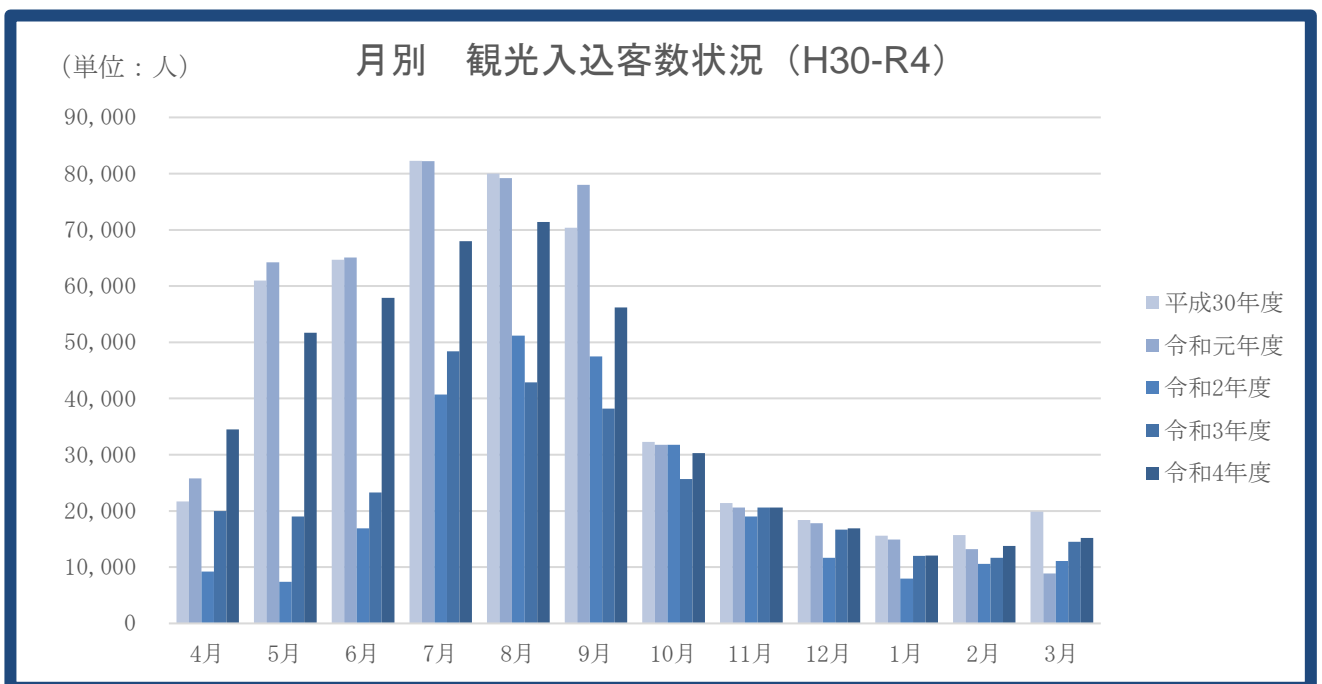
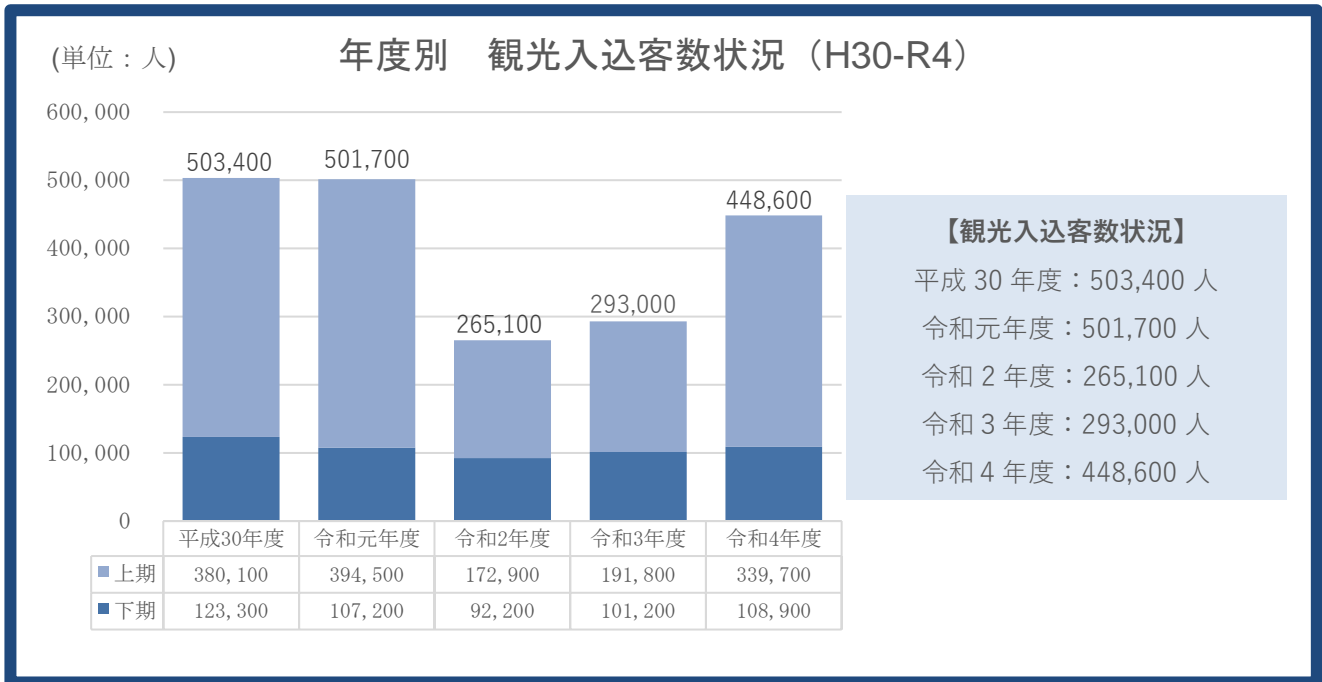
I. 観光入込客数の概要

(1) 総合的な観光入込客数の状況

令和4年度観光入込客数は、総数 448,600 人で、前年度の 293,000 人より 155,600 人増加、前年度比 153.1%となった。

【上期】 339,700 人で前年度の 191,800 人より 147,900 人増加、前年度比 177.1%。

【下期】 108,900 人で前年度の 101,200 人より 7,700 人増加、前年度比 107.6%。



(2) 道内客・道外客別の状況

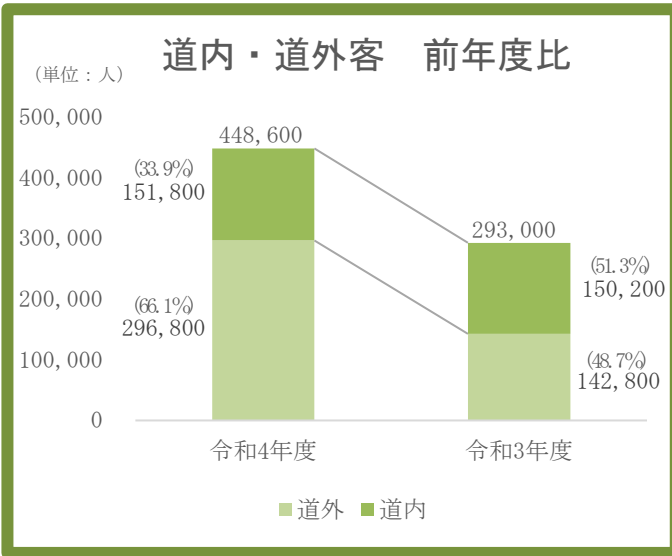
道内客は151,800人で前年度の150,200人より1,600人増加、前年度比101.1%、道外客は296,800人で前年度の142,800人より154,000人増加、前年度比207.8%となった。

【上期】道内客は112,600人で前年度の105,000人より7,600人増加、前年度比107.2%。

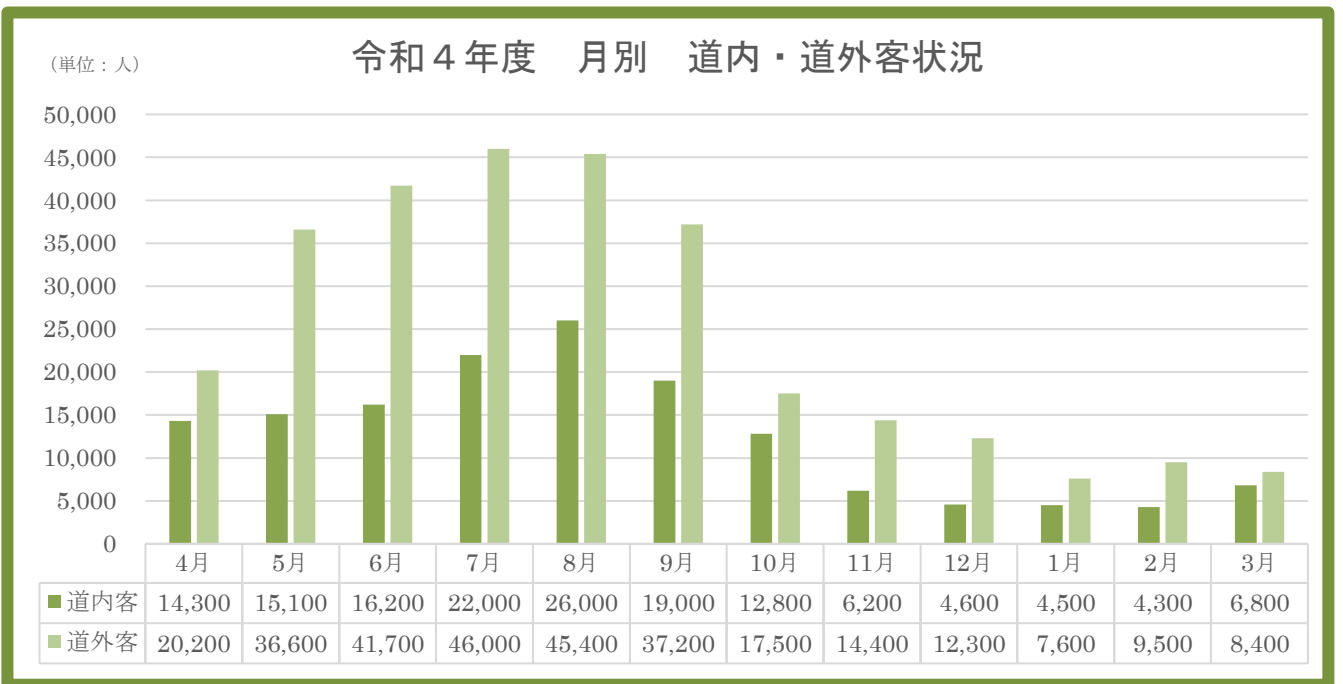
道外客は227,100人で前年度の86,800人より140,300人増加、前年度比261.6%。

【下期】道内客は39,200人で前年度の45,200人より6,000人減少、前年度比86.7%。

道外客は69,700人で前年度の56,000人より13,700人増加、前年度比124.5%。



区 分		令和4年度	令和3年度
道内客	上期	112,600人	105,000人
	下期	39,200人	45,200人
道外客	上期	227,100人	86,800人
	下期	69,700人	56,000人
上期合計		339,700人	191,800人
下期合計		108,900人	101,200人
合 計		448,600人	293,000人



(3) 日帰り客・宿泊客別の状況

日帰り客は188,500人で前年度の85,300人より103,200人増加、前年度比221.0%となった。

【上期】170,000人で前年度の69,500人より100,500人増加。前年度比244.6%。

【下期】18,500人で前年度の15,800人より2,700人増加。前年度比117.1%。

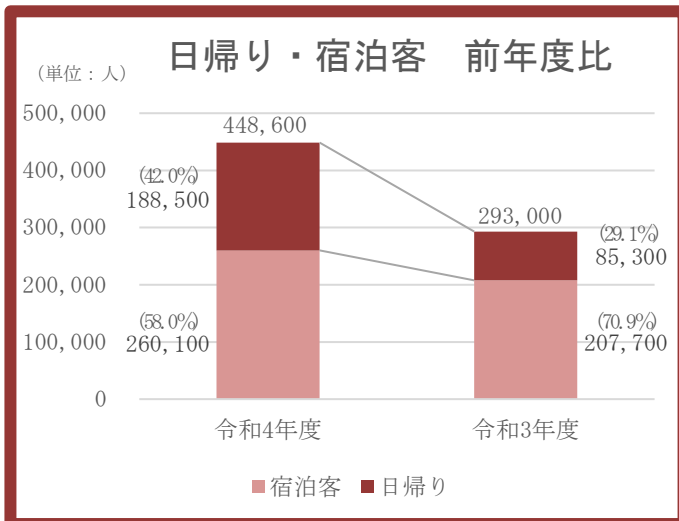
宿泊客は260,100人で前年度の207,700人より52,400人増加、前年度比125.2%となった。また、宿泊客延数は333,300人泊で前年度の274,400人泊より58,900人泊増加、前年度比121.5%となった。

【上期】宿泊客は169,700人で前年度の122,300人より47,400人増加、前年度比138.8%。

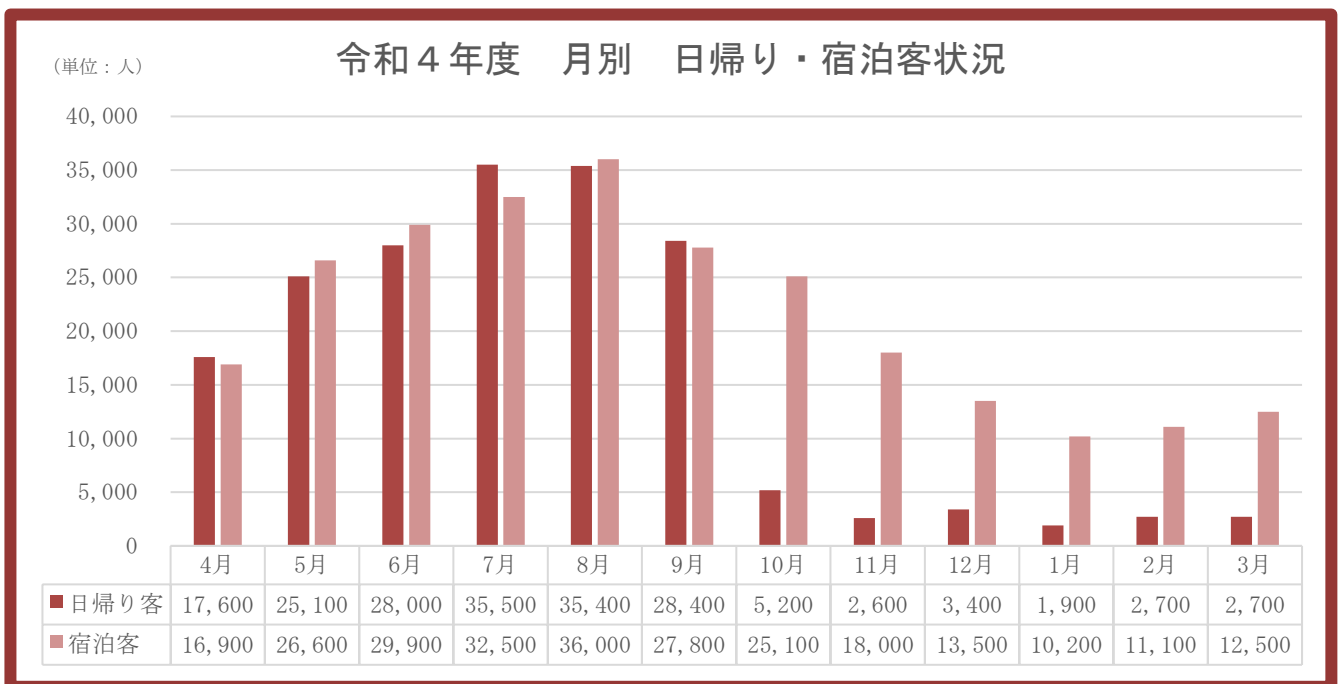
宿泊客延数は220,200人泊で前年度の162,000人泊より58,200人泊増加、前年度比135.9%。

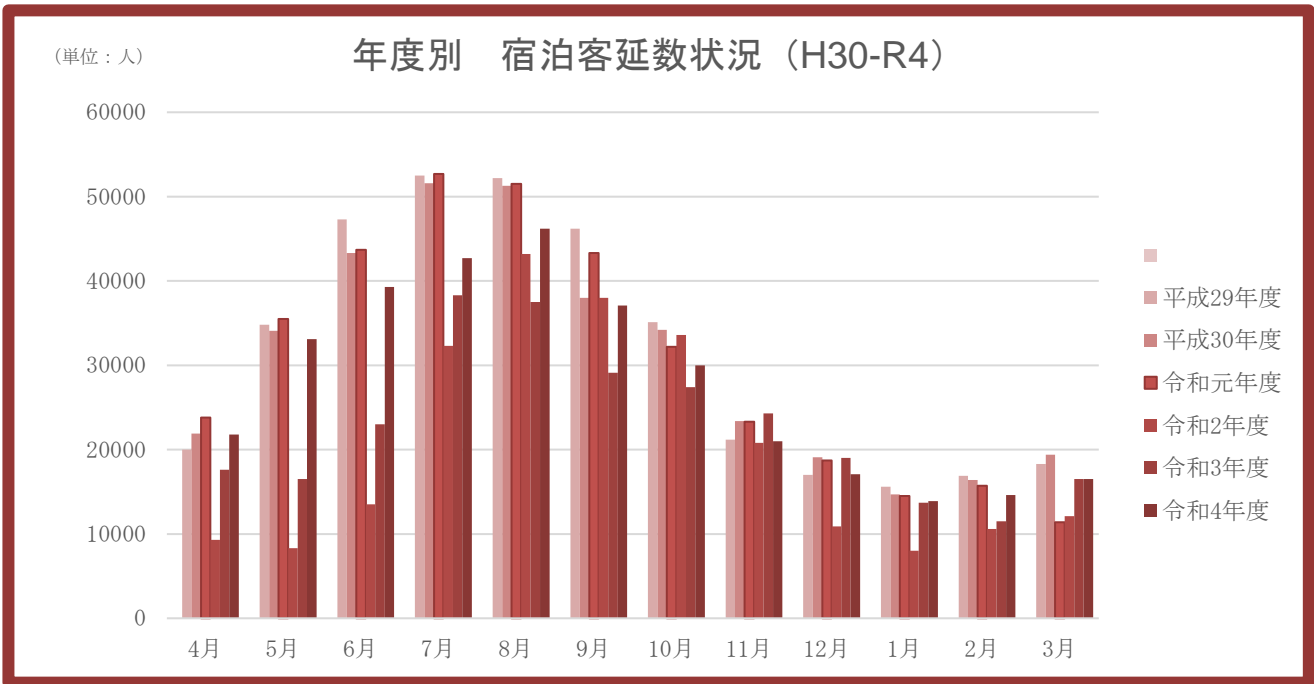
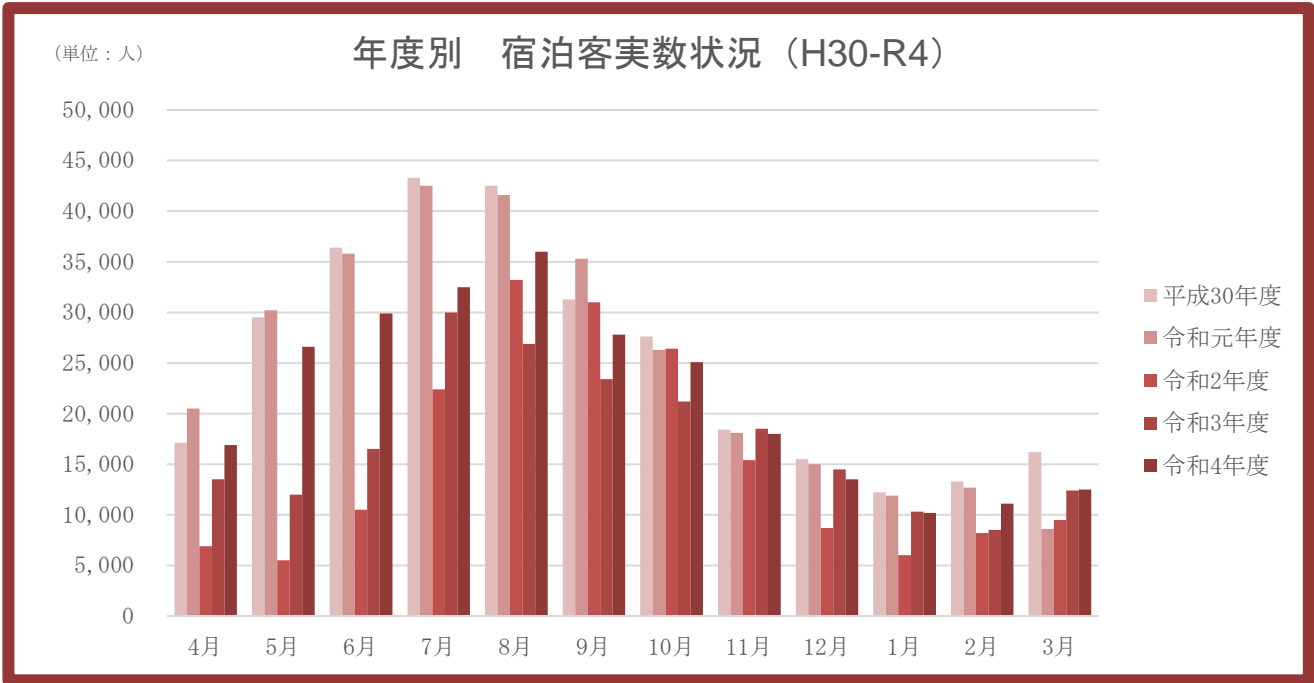
【下期】宿泊客は90,400人で前年度の85,400人より5,000人増加、前年度比105.9%。

宿泊延数は113,100人泊で前年度の112,400人泊より700人泊増加、前年度比100.6%。



区分		令和4年度	令和3年度
日帰り	上期	170,000人	69,500人
	下期	18,500人	15,800人
宿泊	上期	169,700人	122,300人
	下期	90,400人	85,400人
上期合計		339,700人	191,800人
下期合計		108,900人	101,200人
合計		448,600人	293,000人





【宿泊客状況 (実数)】

	上期	下期	合計
平成30年度	200,100人	103,200人	303,300人
令和元年度	205,900人	92,600人	298,500人
令和2年度	109,500人	74,200人	183,700人
令和3年度	122,300人	85,400人	207,700人
令和4年度	169,700人	90,400人	260,100人

【宿泊客状況 (延数)】

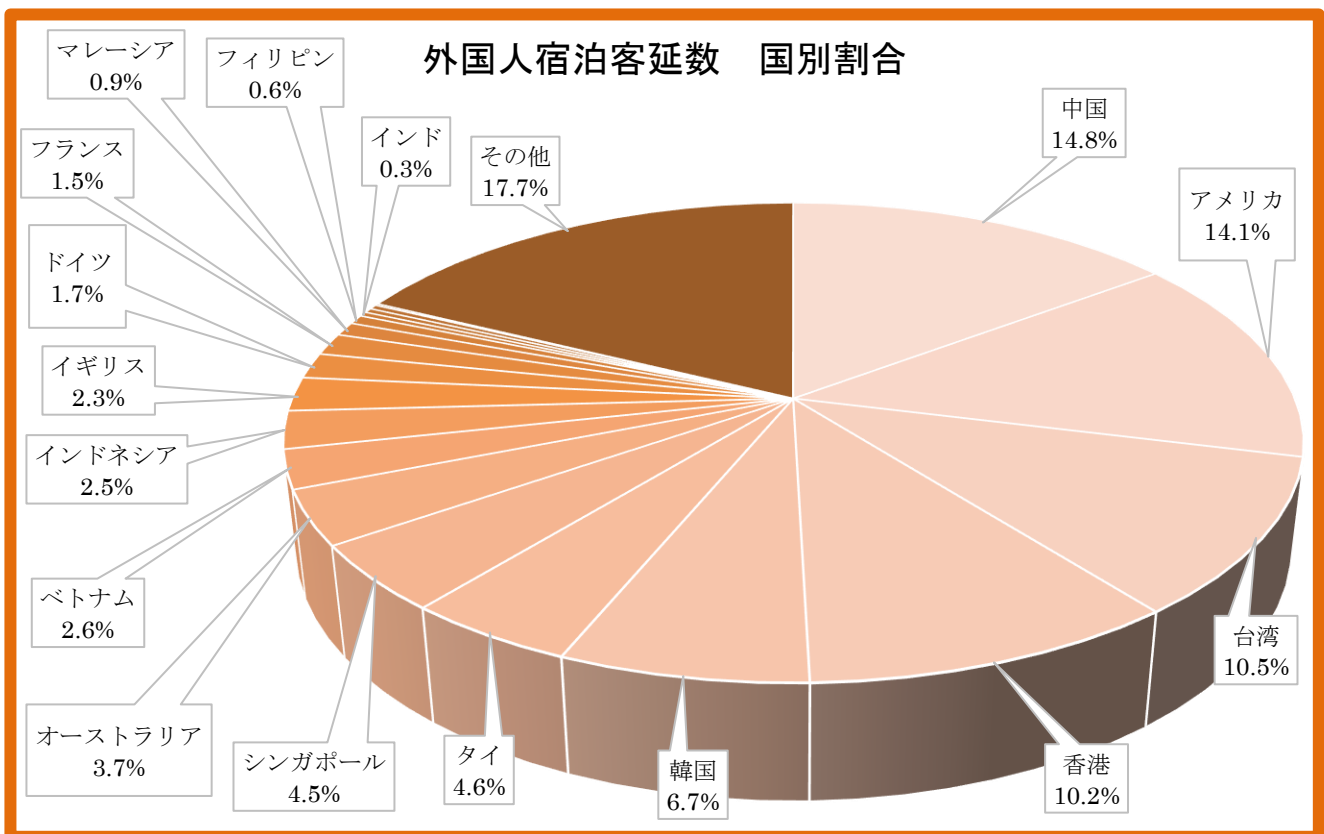
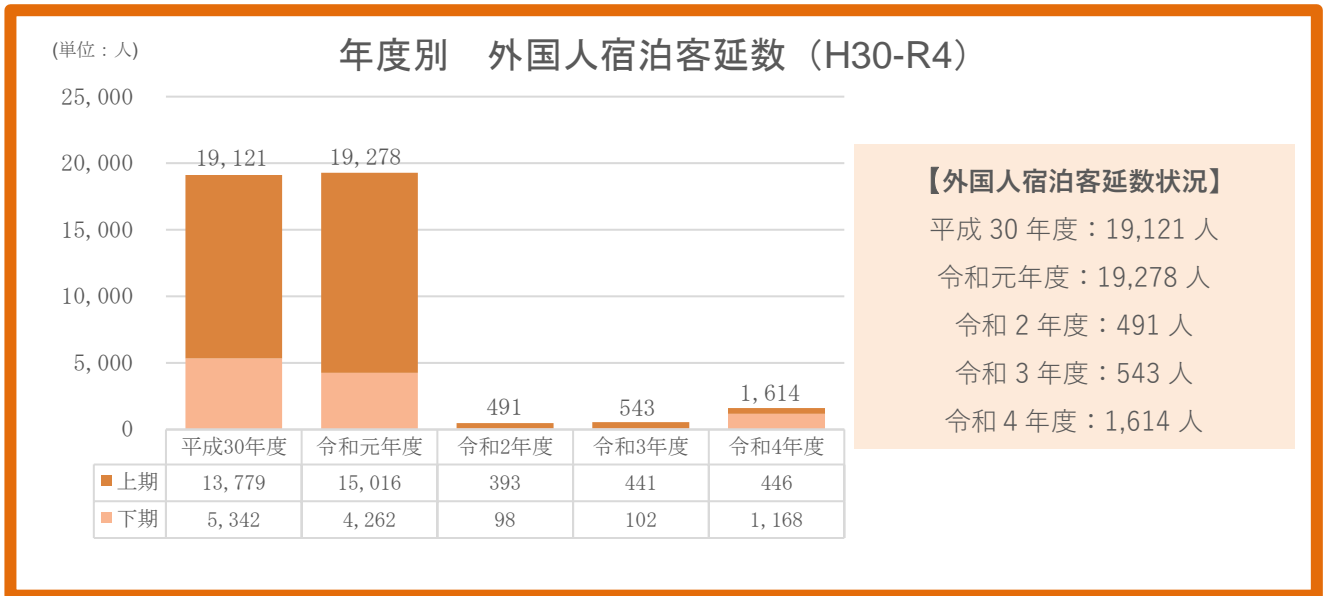
	上期	下期	合計
平成30年度	240,200人	127,200人	367,400人
令和元年度	250,500人	115,800人	366,300人
令和2年度	144,600人	96,000人	240,600人
令和3年度	162,000人	112,400人	274,400人
令和4年度	220,200人	113,100人	333,300人

(4) 外国人宿泊客延数の状況

外国人宿泊客延数は1,614人泊で前年度の543人泊より1,071人泊増加、前年度比297.2%となった。宿泊客の国別内訳は、中国が239人泊(14.8%)と最も多く、続いてアメリカが227人泊(14.1%)、台湾が170人泊(10.5%)である。

【上期】446人泊で前年度の441人泊より5人泊増加、前年度比101.1%。

【下期】1,168人泊で前年度の102人泊より1,066人泊増加、前年度比1145.1%。



Ⅱ. 観光客動態調査（アンケート）分析

【注意】

本章では、観光客へのアンケート調査で得たデータにより観光客の動態を分析する。前章で用いたデータは観光客のカウント調査、各交通事業者やホテル旅館業者への聞き取り調査の結果によるものであるため、本章の分析結果と若干の差がある。また、きた・北海道 DMO で実施しているデジタルアンケートとも、データ収集の方法やアンケート対象、アンケートに含まれる地域の範囲などが異なることから、同様に若干の差がある。

【観光動態調査 調査内容】

調査地域：宗谷岬

調査日数：2日間×12か月

調査人数：300人

調査方法：宗谷岬に滞在している観光客からランダムで300人を選定し、アンケート用紙を配布して調査

(1) 地域別観光客の入込状況

令和4年度の地域別観光客の入込状況は、道内客の割合が減少し、道外客の割合が増加した。

① 道内観光客の入込状況

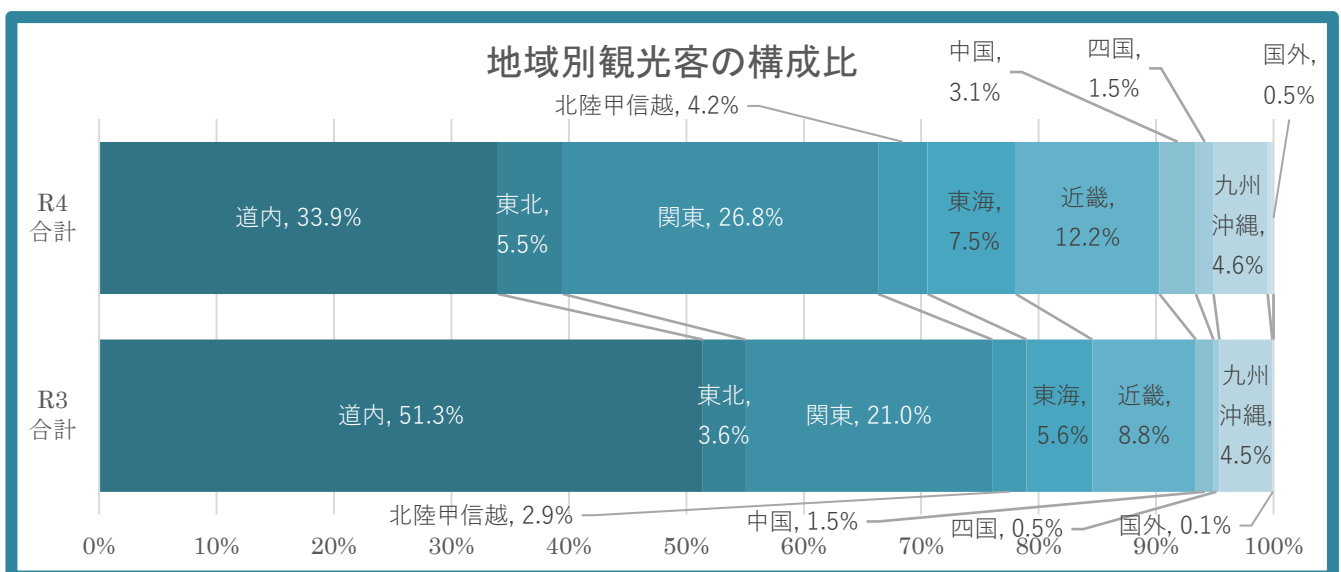
道内観光客の割合は減少（51.3%⇒33.9%）したが、人数は1,600人増加している。令和4年度はポストコロナへと移行をし始めた年であったが、特に上期において新型コロナの感染拡大は続いていたことから、北海道民のマイクロツーリズムの機運が冷めなかったことなどが要因と考えられる。

② 道外観光客の入込状況

道外観光客の割合は増加（48.6%⇒65.6%）し、人数は154,000人増加した。昨年度と比べ、道外客の道内旅行の機運がより高まったことなどが要因と考えられる。特に、ANA 稚内羽田便の夏期二便体制の維持や団体ツアーの催行が戻り始めたことなどが影響しているとみられる。

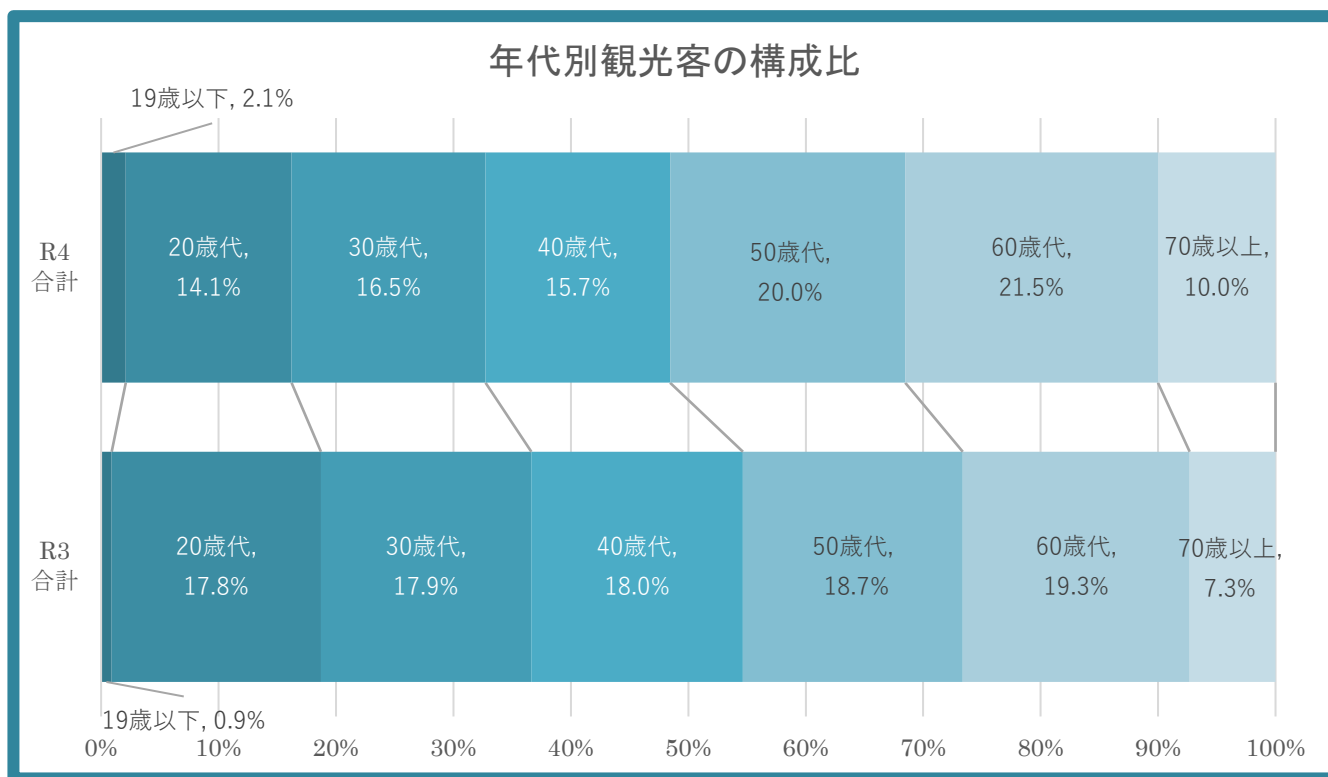
③ 外国人観光客の入込状況

外国人観光客（国外）の割合は増加（0.1%⇒0.5%）し、外国人宿泊延数は1,071人泊増加した。これは令和4年10月から国の入国制限が解除されたことが要因である。



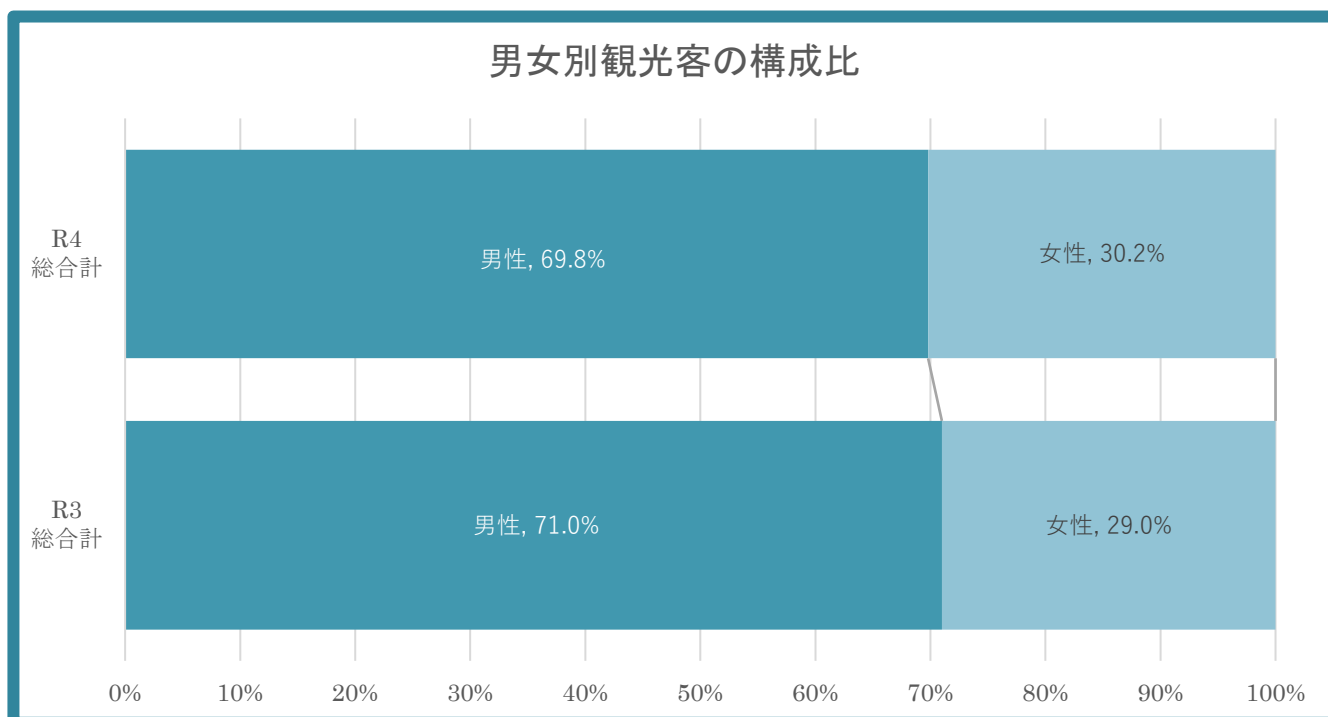
(2) 年代別観光客の入込状況

年代別観光客では50歳以上の高齢層の割合が増加（45.3%⇒51.5%）した。これは昨年度と比べ、高齢層が嗜好する傾向のある団体ツアーの催行が、戻り始めたことが影響していると考えられる。



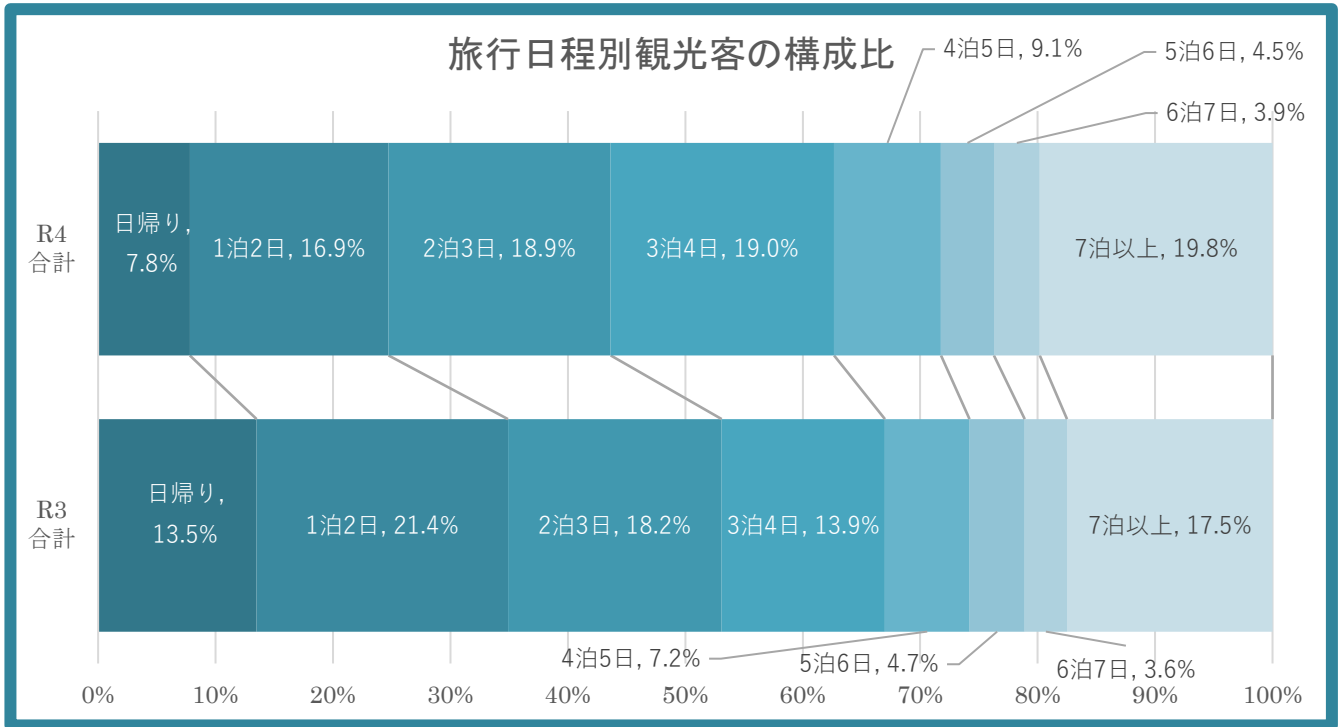
(3) 男女別観光客の入込状況

男女別観光客の割合は変化がなかった。



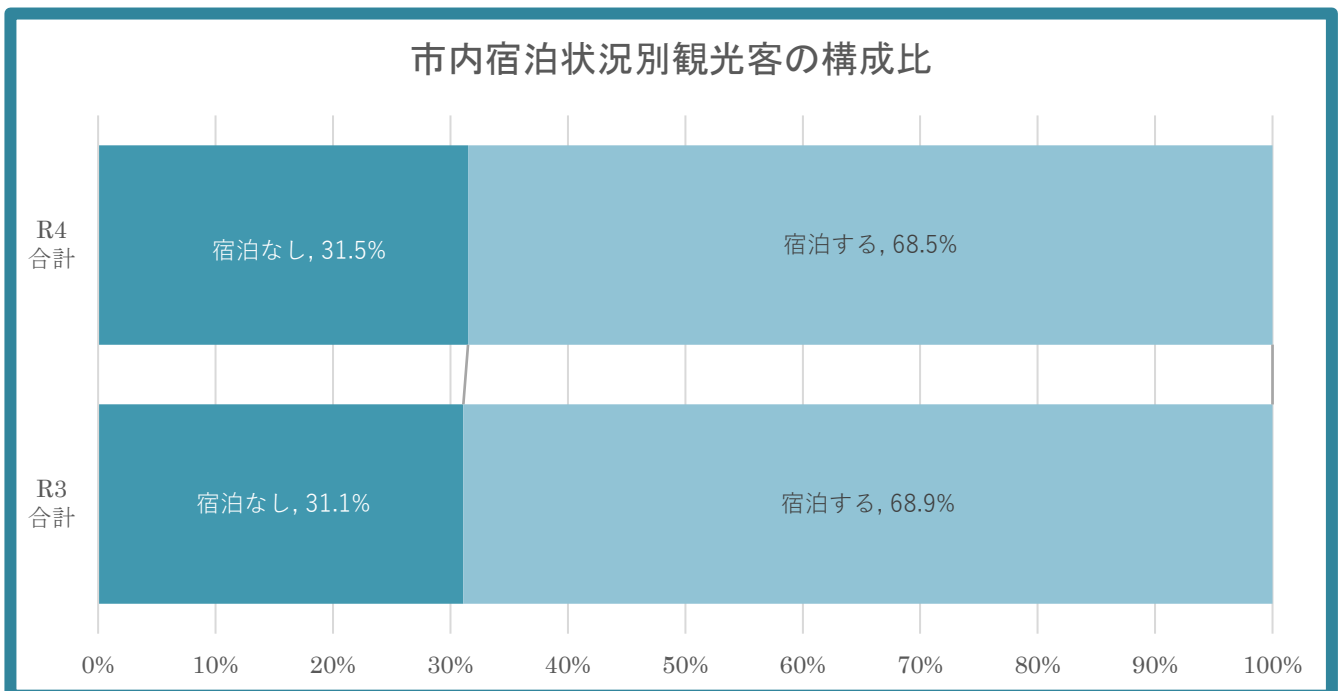
(4) 旅行日程別観光客の入込状況

旅行日程別観光客では、日帰り旅行の割合が減少した（13.5%⇒7.8%）。これは国や地方自治体独自の旅行キャンペーンが令和4年度も継続実施され、それらを利用した宿泊を伴う旅行をする観光客が増えたためと考えられる。また、それに伴い2泊以上を伴う旅行をする観光客も増えている（65.1%⇒75.3%）。



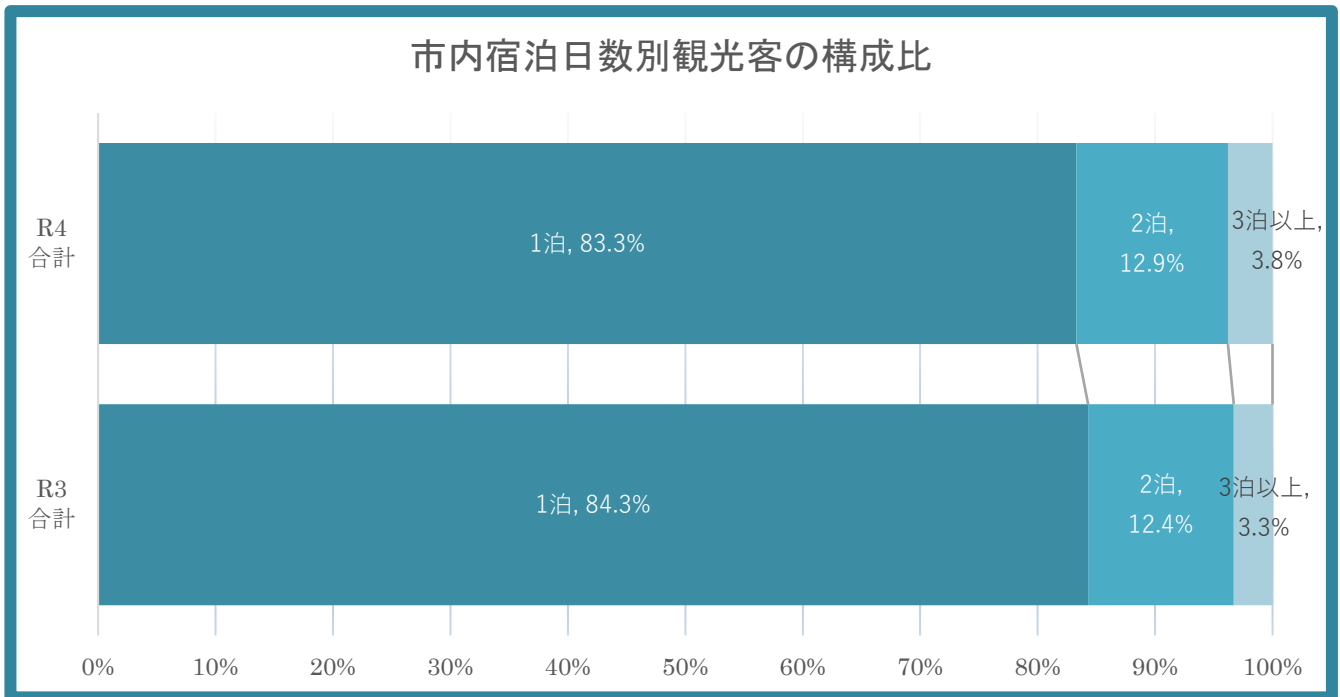
(5) 市内宿泊状況別観光客の入込状況

市内宿泊状況別観光客の割合は変化がなかった。



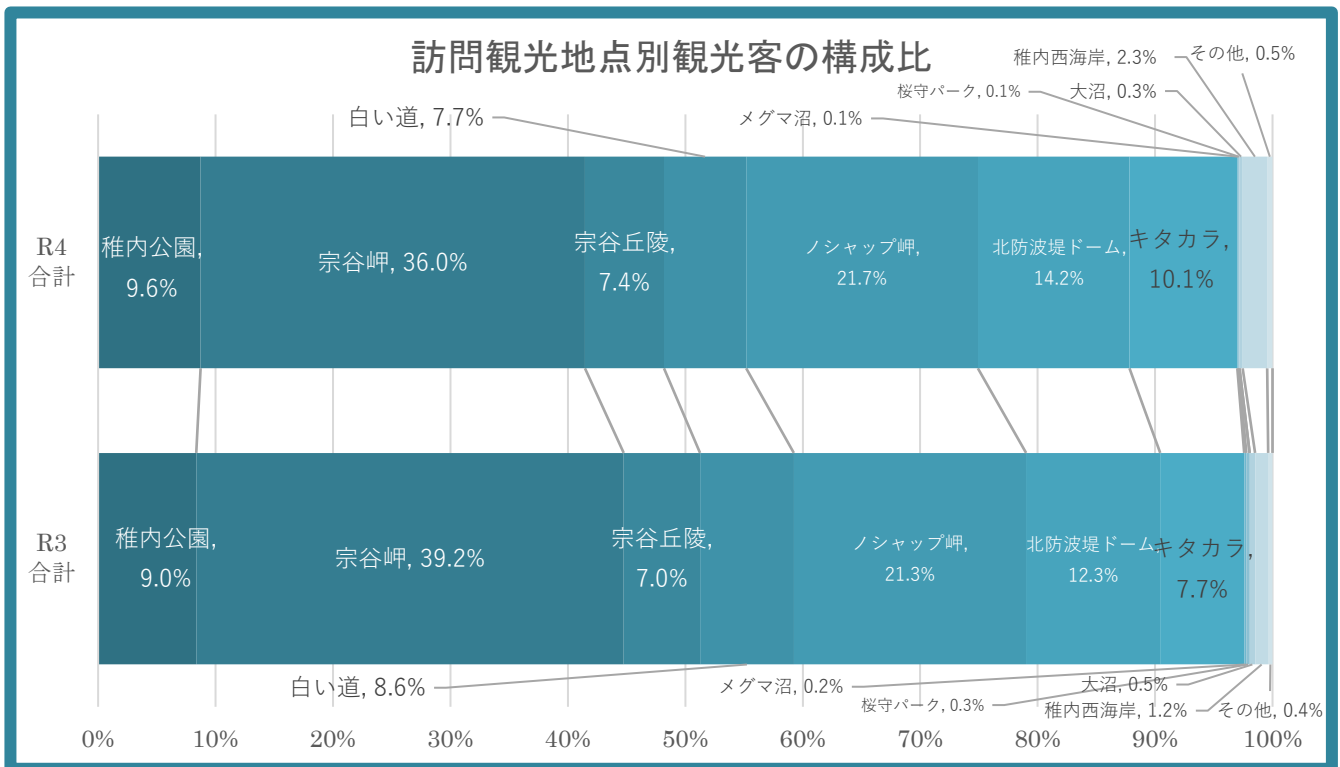
(6) 市内宿泊日数別観光客の入込状況

市内宿泊日数別観光客は1泊の割合が若干減少したが、全体的にはあまり変化はなかった。



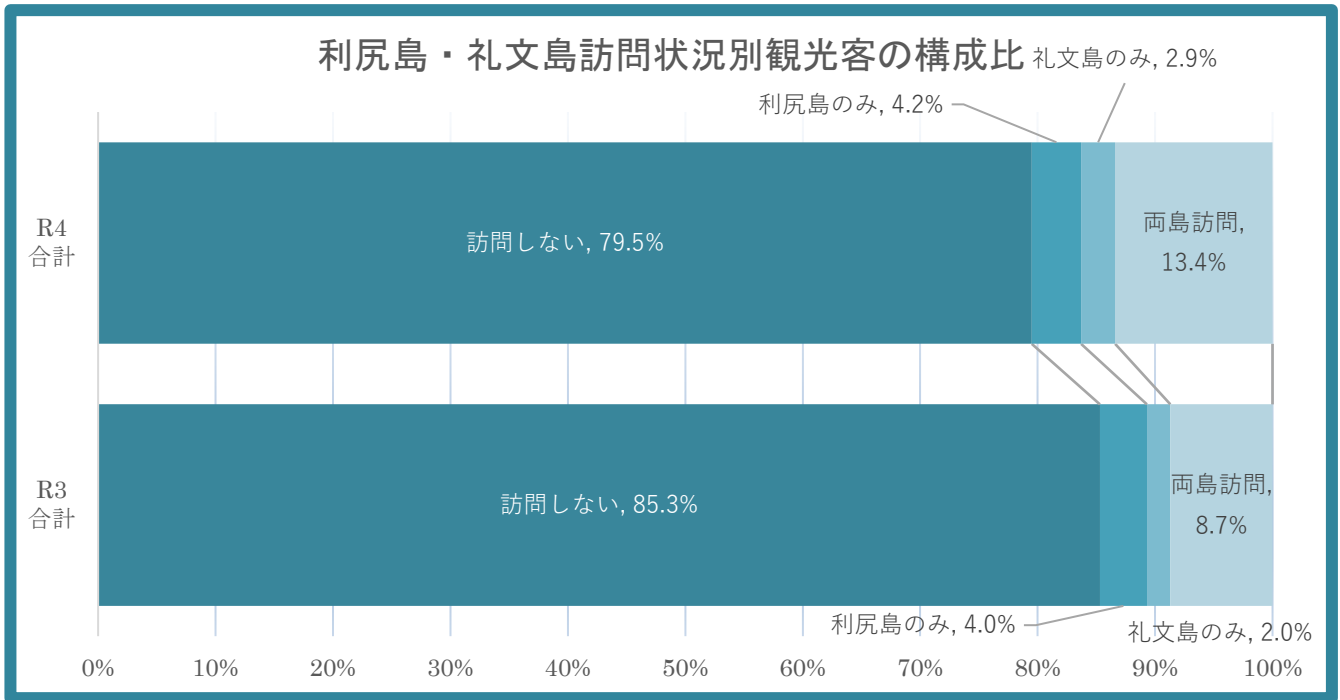
(7) 訪問観光地点別観光客の入込状況

訪問観光地点別観光客では、前年同様、稚内公園・宗谷岬・宗谷丘陵・白い道・ノシャップ岬・北防波堤ドーム・キタカラを訪問する観光客の割合が全体の9割以上を占めている。



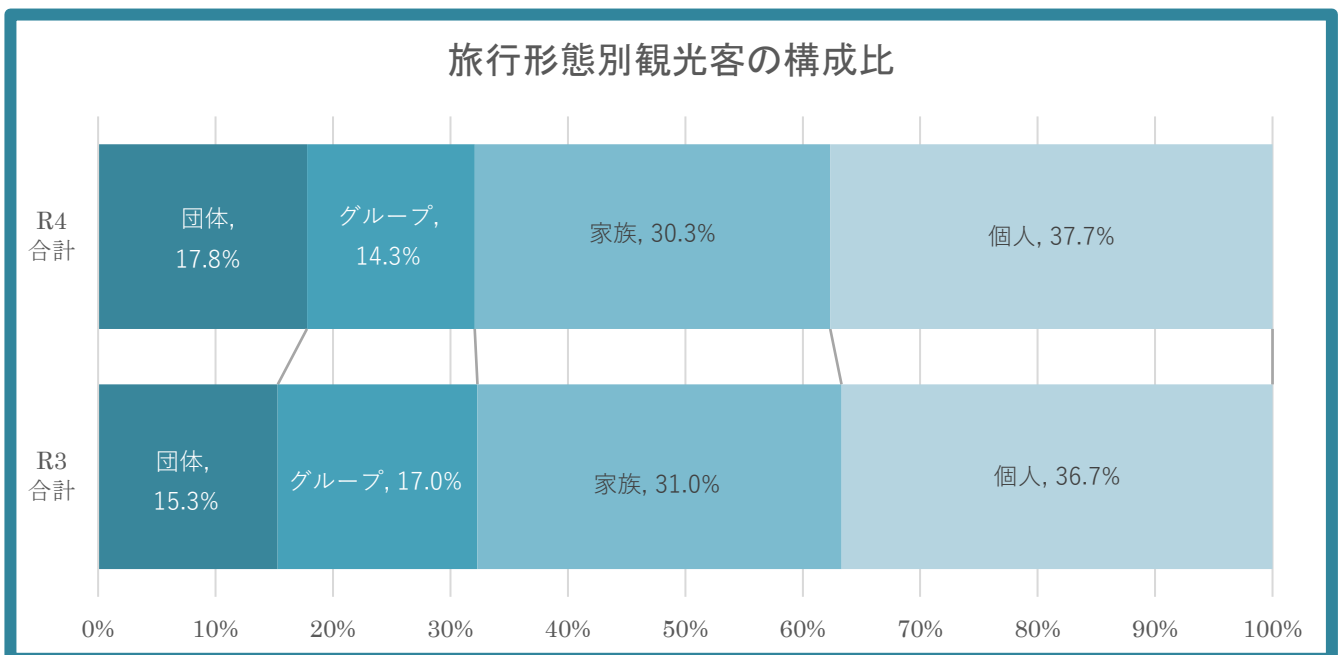
(8) 利尻島・礼文島訪問状況別観光客の入込状況

利尻島・礼文島訪問状況別観光客の入込状況は、利尻・礼文島（両島含む）を訪問する観光客の割合が増加している（14.7%⇒20.5%）。



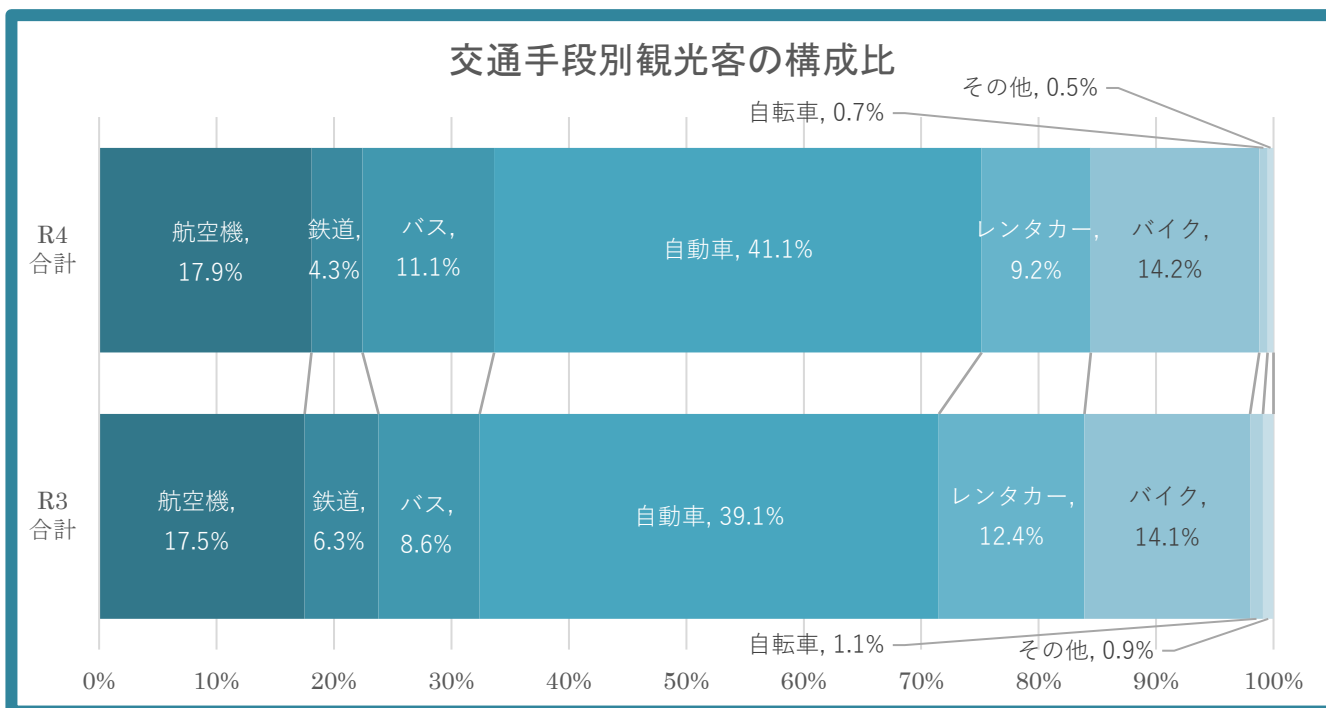
(9) 旅行形態別観光客の入込状況

旅行形態別観光客では、団体旅行（15.3%⇒17.8%）や個人旅行（36.7%⇒37.7%）の割合が増加した。団体旅行の増加要因は、団体ツアーの催行が回復傾向にあったことが挙げられる。一方、個人旅行が減少していないことから、コロナ禍によって高まった個人旅行の機運が冷めていないことや、一定程度のビジネス客の入込が維持されていることが伺える。



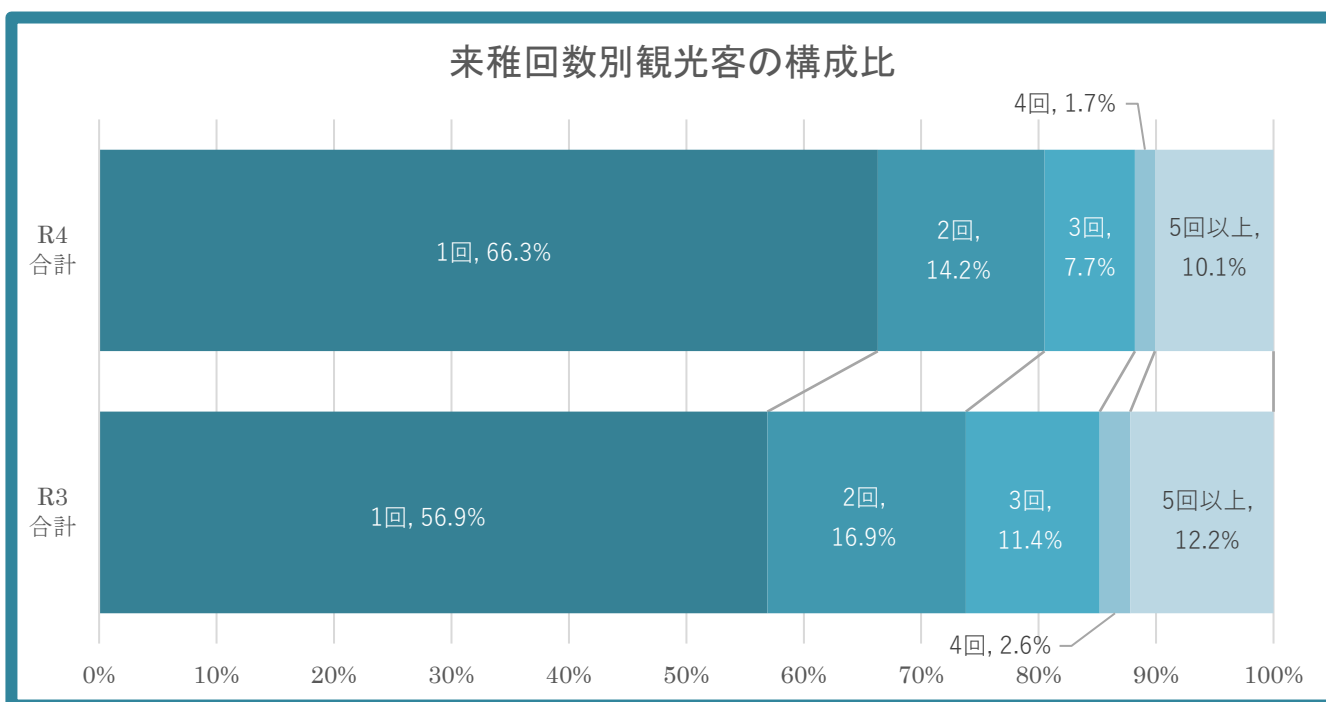
(10) 交通手段別観光客の入込状況

交通手段別観光客ではバスを利用した割合が増加（8.6%⇒11.1%）した。その理由は団体ツアーの催行が増えたことが要因と考えられる。



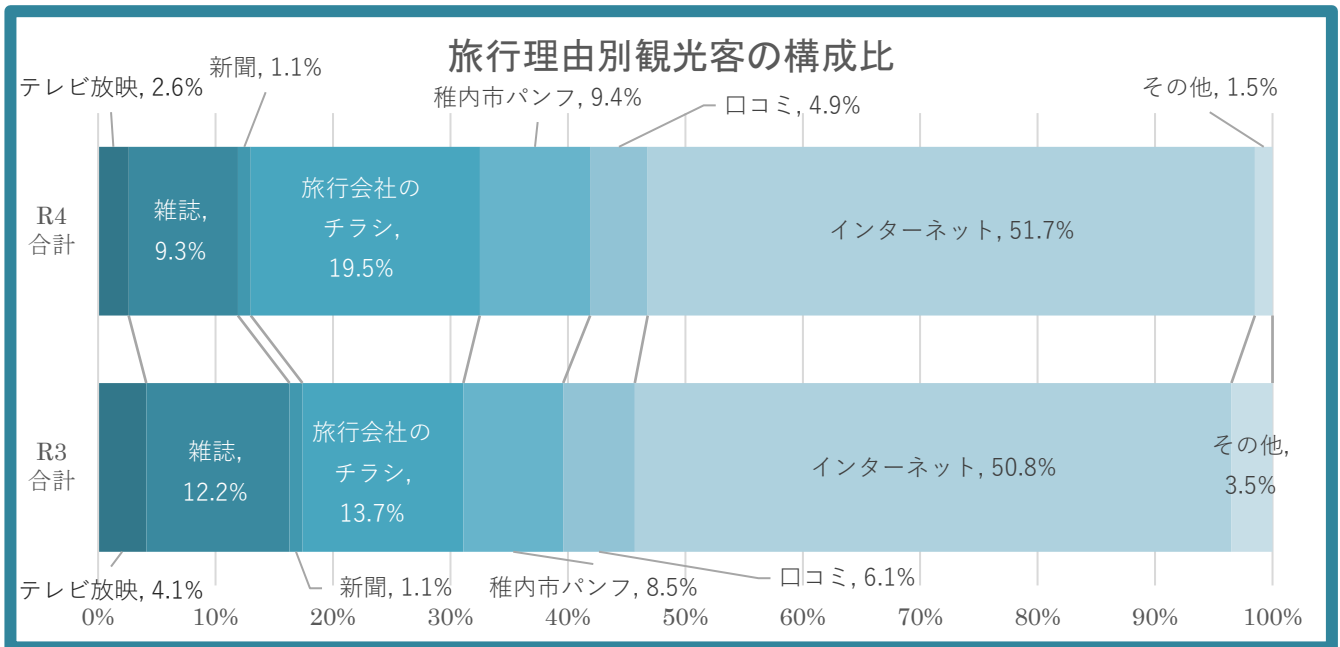
(11) 来稚回数別観光客の入込状況

来稚回数別観光客では、初めて本市を訪れた観光客（1回）の割合が増加（56.9%⇒66.3%）した。これは道外観光客の割合が増加したことや団体ツアーの催行が増えたこと、特に上期は新型コロナの感染拡大が続いており海外旅行から国内旅行に切り替えた人々がいたことなどが要因と考えられる。



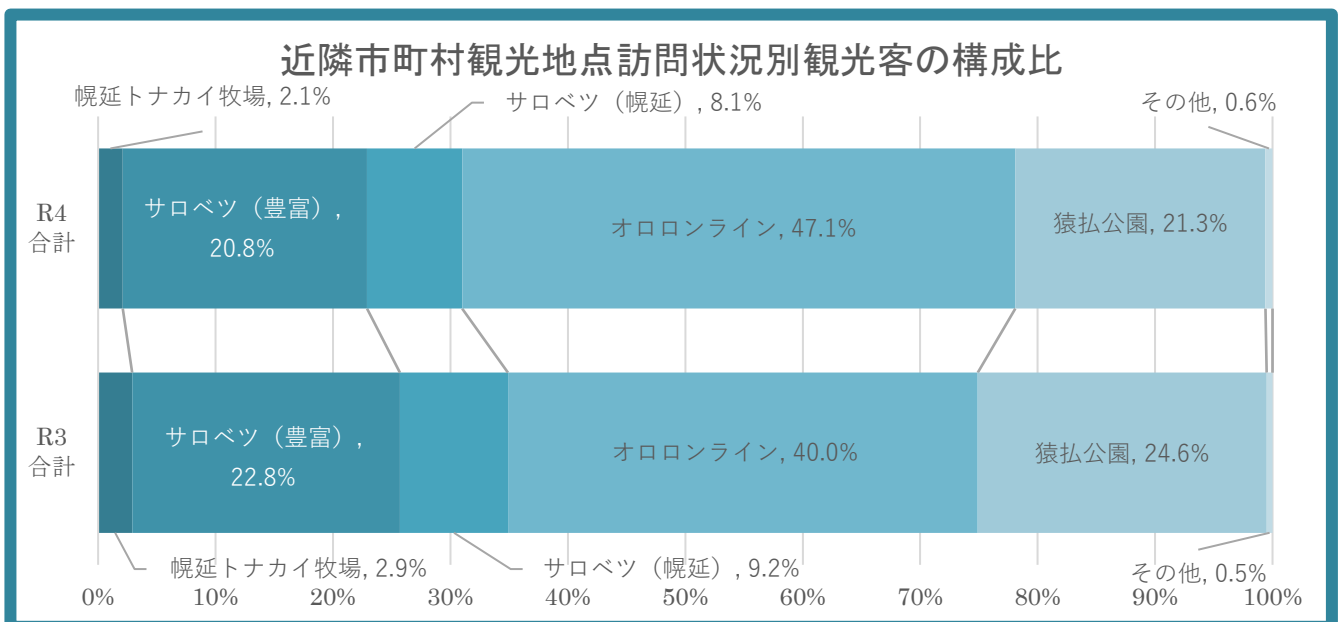
(12) 旅行理由別観光客の入込状況

旅行理由別観光客では、旅行会社のチラシが増加した(13.7%⇒19.5%)。これは団体ツアーの催行が増えたためと考えられる。また、同時にインターネットの割合が増加(50.8%⇒51.7%)している。本市が経済対策として実施したクーポン事業を利用し、オンラインで宿泊予約をした人々が増えたことやインターネットによるプロモーションを積極的に行ったことが関係しているとみられる。



(13) 近隣市町村観光地点訪問状況別観光客の入込状況

近隣市町村観光地点訪問状況別観光客では、依然、オロロンラインの割合が増加した(40.0%⇒47.1%)。この結果から道央圏から自動車などを利用し、オロロンラインを通して来稚した観光客が増えている可能性が伺える。その要因として、札幌を中心として行ったインターネットによるプロモーションなどが影響していると考えられる。



Ⅲ. 総合的な検証

(1) 観光入込客数状況

令和4年度観光入込客数の総数は448,600人となった。これは令和3年度の293,000人と比較すると155,600人増加、前年度比153.1%となり、大幅に回復する結果となった。コロナ前の令和元年度の501,700人と比較しても53,100人減少、令和元年度比89.4%となり、コロナ前に戻りつつある。これは、特に上期に国から緊急事態宣言やまん延防止等重点措置などの発令がなく、移動制限がかけられず入込が大きく回復したこと、さらに下期もポストコロナに進みつつあり安定した入込があったこと、感染対策を施しながら旅行を楽しむスタイルが浸透してきたことなどが大きな理由であると考えられる。また、本市においても春や秋・冬に観光入込客数の増加及び経済波及効果を最大化させるため、宿泊費の助成と市内登録店で利用できる「わからない応援クーポン」の配布を組み合わせ「春々旅キャンペーン」「秋冬キャンペーン」の実施や、北海道の「Hokkaido Love!割」などが観光客の旅行需要を高めたためと考えられる。さらに、団体ツアー旅行の催行もコロナ前に戻りつつあり、入込客数の底上げに大いに貢献したとみられる。

(2) 観光入込客数の内訳

令和4年度の道内客は151,800人であり、令和3年度の150,200人と比較すると1,600人増加、前年度比101.1%となった。コロナ前の令和元年度の道内客は133,200人であることから、コロナ前よりも道内客が増加していることとなる。これには、道民のマイクロツーリズムの嗜好が依然として高まっていることや風力発電の建設を中心とした大型工事の関係者などビジネス客の往来が維持されていることが影響しているものと考えられる。

令和4年度の道外客は296,800人であり、令和3年度の142,800人よりも154,000人増加、前年度比207.8%となった。令和元年度の道外客は368,500人であり、比較すると80.5%まで回復していることがわかる。これは、令和3年度に1便体制で運航していた夏季の稚内―羽田便が2便体制に復活したことや、それに伴う団体ツアーの催行が要因と考えられる。

令和4年度の外国人観光客の宿泊延数は1,614人泊となり、令和3年度の543人泊よりも1,071人泊増加、前年度比297.2%となった。特に下期においては、令和4年10月から、国により外国人の新規入国制限が緩和された。その結果、下期は令和3年度の102人よりも1066人増の1,168人、前年度比1,145.1%となった。本市ではコロナ禍においても海外向けの広告出稿やプロモーション、台湾人地域おこし協力隊による情報発信を積極的に行ってきた。令和5年度は本格的にインバウンド需要が高まるのは間違いなく、本市においても外国人観光客の入込、そしてそれがもたらす経済波及効果に期待をしたい。

(3) 今後の取り組み

令和4年度の観光入込客数は、コロナ前の令和元年度比89.4%まで回復した。令和5年度以降の日本社会は、ポストコロナの段階に入ると予想される。コロナ禍において、本市は市内事業者に対し国の交付金を活用した経済支援を積極的に行った。それらが功を奏し市内事業者の廃業なども少なく、

観光資源を維持することが出来た。今後はそれらの観光資源を大いに活用することで、観光客の満足度を高めるとともに、滞在時間の延長を図り、観光客一人ひとりの経済波及効果を最大化できるような取り組みを実施する必要がある。

また、令和4年度末に公表された観光立国推進計画には、「持続可能な観光」「消費額拡大」「地方誘客促進」の3つのキーワードが掲げられているが、特にインバウンド（訪日外国人旅行者）の誘客に重点が置かれている。令和5年9月にはアジアで初の開催となるATWS（アドベンチャー・トラベル・ワールド・サミット）が北海道で開催され、その分野に精通する約800名の旅行エージェントやメディアがATWSに参加するために世界中から来道する。アドベンチャー・トラベルは大きな市場を持つことが国際的に知られており、本市においてもATWSの会議後に参加者のうち特に影響力のある8名を招聘し、本市の「自然」「食」「歴史」を売り込む場を設定している。また、コロナ前に実施予定であった台湾からのチャーター便の誘致活動も復活させたいと考えており、北海道エアポートとの連携を密に行いながらインバウンド対策に努めていきたい。

コロナ禍を経験したことで、今後の観光産業は観光入込客数を増加させる「量の観光」の推進と同時に、長期滞在者やリピーターの増加や消費行動の促進を行い、観光客一人ひとりの経済波及効果を最大化することを目指す「質の観光」の推進が急務であることを再確認した。現在は、その実現を目的とし、夏季はサイクリングや白い道ツアー、冬季は大沼を活用したハードアクティビティなど、観光コンテンツの見直しを進めている。さらに「食」「自然」「歴史」「環境・エネルギー」といった他の地域にはない本市特有の資源が集積し、我がまちの誇りでもある観光地「宗谷岬周辺」の整備も行き、同地域が「住んでよし、訪れてよし」の地域となることを目指す。

また、きた・北海道DMOは現在、観光客や地域住民へのデジタルアンケートを実施している。これらの分析によって本地域にとって必要不可欠であると明らかとなった二次交通の充実や計画的・戦略的な広告の実施、体験型観光コンテンツの整備・造成などに取り組むとともに、人手不足による宿泊施設や飲食店等の受入体制の見直しを行い、課題解決を図っていく。

これらの取り組みを通して、コロナ禍で落ち込んだ本市の主要産業である観光産業の復活・底上げを果たしていきたい。